

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要と目的

平成30年4月、平成30年度全国学力・学習状況調査が、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的として全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、悉皆調査として実施されました。

なお、国の調査実施要領で謳われているとおり、本調査で測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえて、調査結果を報告するものです。

2 実施状況

(1) 調査実施日 平成30年4月17日(火)

(2) 実施項目 ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査 国語、算数・数学、理科

国語及び算数・数学については、

主として「知識」に関する問題(A)

主として「活用」に関する問題(B)

理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体として行う。

(イ) 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する質問紙調査

学校を対象に、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備にかかる状況等に関する調査

(3) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(4) 実施人数 (単位:人)

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	理科	質問紙
小学校6年生	3,735	3,738	3,737	3,739	3,738	3,737
中学校3年生	3,450	3,454	3,458	3,455	3,456	3,452

3 平均正答率一覧表

(1) 藤沢市立小学校平均正答率 (単位:%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国(公立)	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
神奈川県(公立)	70	54	64	52	60
藤沢市(公立)	67	51	62	50	59

全ての教科において神奈川県及び全国の公立小学校の平均正答率をやや下回っています。

(2) 藤沢市立中学校平均正答率 (単位:%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国(公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
神奈川県(公立)	76	62	66	48	66
藤沢市(公立)	76	63	67	49	66

国語B・数学Bについては、神奈川県及び全国の公立中学校の平均正答率をやや上回っており、国語A・数学A及び理科については、神奈川県及び全国の公立中学校の平均正答率と同程度となっています。

※国立教育政策研究所の報告書には、「全国の平均正答率(公立)の±5%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。」と表記されています。

(出典:平成30年度全国学力・学習状況調査報告書 文部科学省 国立教育政策研究所)

4 教科に関する調査結果の特徴と授業改善のポイント

【小学校 国語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと
- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うこと
- 話し合いの参加者として、質問の意図を捉えること

<課題があるとみられる内容>

- 漢字を文の中で正しく使うこと
- 目的に応じて複数の本や文章などを選んで読むこと
- 文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く
- 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く

【小学校 算数】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること
- 図形の基礎となる「角」の概念である 180° の角の大きさを理解すること

<課題があるとみられる内容>

- 小数の除法の意味について理解すること
- 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360 度になっていることを記述すること
- 複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現すること
- 複数の情報を関連付けて論理的に考察し、根拠を明確にして数学的に表現すること

【小学校 理科】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 安全に留意し、生物を愛護する態度をもって野鳥のひなを観察できる方法を構想すること
- ろ過の適切な操作方法を身につけていること
- 2つの異なる実験方法から得られた結果を分析して考察すること

<課題があるとみられる内容>

- 実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること
- 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想すること
- 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること

【中学校 国語】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 文脈に即して漢字を正しく読むこと
- 慣用句の意味を理解すること
- 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問すること
- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること

＜課題があるとみられる内容＞

- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと
- 全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと

【中学校 数学】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 数直線上に示された負の整数を読み取ること、単項式どうしの除法の計算、簡単な比例式を解くこと
- 見取り図、投影図から空間図形を読み取ること
- グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈すること

＜課題があるとみられる内容＞

- 数量の大小関係を不等式に表すこと
- 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明すること
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解すること

【中学校 理科】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

- 無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用すること
- 豆電球と豆電球型の LED の点灯の様子と電力との関係を指摘すること
- 初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識と音の速さに関する知識を活用すること
- アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けていること

＜課題があるとみられる内容＞

- 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘すること
- 神経系の働きについての知識を身に付けていること
- 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘すること

5 児童生徒質問紙調査に関する調査結果の特徴と改善のポイント

※児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数を問う設問を除いて、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した比率を合計しています。

(1) 特徴

	質問項目	児童	生徒
学習に関する 関心・意欲等	理科の勉強が好き	77.1%	58.0%
	理科の勉強は大切だ	80.1%	61.1%
	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	57.2%	38.5%
	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	65.7%	47.8%
	理科の授業で自分の考えを周りの人に説明したり、発表したりしている	47.1%	39.1%
	理科の授業で観察や実験の進め方や考え方について振り返っている。	57.7%	49.5%
	算数・数学の勉強が好き	60.1%	53.2%
	算数・数学の勉強は大切だ	89.7%	74.7%
	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	57.9%	32.3%
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	87.3%	64.3%
算数・数学の授業で公式や決まりを習うとき、その根拠を理解するようにしているか	75.2%	65.1%	
課題解決学習	今まで受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた	72.2%	69.1%
	自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるように資料や文章、話の構成などを工夫した	58.3%	57.3%
	級友との間で話し合う活動を通じ、自分の考えを深めたり広げたりすることができた	71.3%	72.8%
生活	朝食を毎日食べている	95.3%	90.8%
	就寝時刻が毎日ほぼ同じ	76.0%	67.4%
	起床時刻が毎日ほぼ同じ	87.7%	84.2%
	放課後に家でテレビやビデオ・DVDを見たりゲームをしたりインターネットをしたりする	79.7%	81.4%
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする	81.9%	73.1%
	今住んでいる地域の行事に参加しているか	54.8%	32.0%

学習習慣・ 学習時間	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	62.1%	43.1%	
	家で、学校の宿題をしている	96.2%	86.3%	
	家で、学校の授業の予習・復習をしている	50.1%	43.1%	
	平日に学校以外で 勉強する時間	2時間以上	32.6%	50.4%
		1～2時間	24.4%	23.3%
		30分～1時間	25.0%	12.3%
30分より少ないか全くしない		17.9%	14.0%	
その他	自分には、よいところがあると思いますか	82.8%	76.8%	
	先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか	81.6%	79.0%	
	学校の決まりを守っている	85.4%	93.9%	

6 今後の教育活動に向けて

新しい学習指導要領の全面実施に向けて、小中学校ともに「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学校全体での授業づくりをより充実させることが重要です。そのためには、ミドルリーダーが中心となり、教職員同士が価値を見いだし、共有し、楽しみながら意欲的に校内研究を進めるよう、学校全体で取り組む必要があります。

さらに、小中合同の研修や教職員同士の交流の活性化を図り、9年間を見通した教育連携の充実を図っていくことが大切となります。

(1) 教育委員会における今後の取組

ア 今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知します。また、教育委員会のホームページで公開し広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ 本市の児童生徒は、自分の考えを書くことや説明することについて、引き続きの課題が見られることから、改善に向けた工夫や取組の必要性を学校に対して働きかけていきます。

ウ 一人ひとりにきめ細かな支援等を行う「支援教育」の考え方に基づいた「わかる授業づくり」や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各学校への計画訪問や要請訪問を通して、指導主事による指導を行います。

また、教員のキャリアステージごとに経験者研修を実施するとともに、指導主事や学校人材育成支援員による教員の資質と指導力の向上を図ります。

エ 教育文化センターにおいて、「授業づくり」研修講座や「教科・領域」研修講座等を開催し、授業力向上にむけたスキルアップを図ります。

オ 好ましい生活習慣の確立は、学力と密接な関係があることから、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を目指し、計画的に家庭学習に取り組んでいくことができるよう、保護者に向けて、家庭での時間の使い方の改善について働きかけを行います。

(2) 学校における今後の取組

ア 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で共有します。その際、学年会、教科会において児童生徒の課題となる点を話し合い、チームで授業実践を行っていきます。また、課題については指導計画等に反映させます。

イ 児童生徒への調査によると「算数・数学や理科が好き」「学んだことは生活の役に立つ」という意識が低い傾向にあります。児童・生徒の生活経験をもとにした授業展開を工夫し、興味関心を高め、わかりやすい授業・たのしい授業を目指します。

ウ 課題の解決に向けて自分で考えたり、自分の考えが伝わるよう工夫する姿勢に改善が見られています。引き続き、主体的に活動する児童生徒の育成を目指し、話し合い活動や学び合う学習活動を意識し、どの教科・領域等においても、児童生徒が主体的に学習に参加し、自分の考えを広げたり深めたりすることができるような授業づくりを進めます。

エ 児童生徒一人ひとりが自分にあった学習方法を見つけ、自分で計画した自学自習を進められるよう、そのきっかけをつくり、学習の手立て（学習の方法）を指導します。家庭と連携しながら、自ら計画を立てて予習復習を行う学習習慣の確立や生活習慣の改善に向けた取組を行います。